

地域農業発展へ 身近な事例学ぶ

J A はだのは2月26日、本所で第9回地域農業振興大会を開いた。生産組合員や直売所出荷者ら112人が参加。秦野市内で昨年初めて開設した体験型農園の事例や、J A 神奈川県中央会の県内産農産物の販売方法などを紹介した。

振興大会に直売所出荷者ら112人

初の体験型農園紹介



介している。今年のテーマは体験型農園。平沢の「名水湧く湧く(わくわく)農園」園主の和田礼子さんが、開園までの流れやJ A の具体的な支援内容の他、1年間運営した感想などを発表した。続いて、T A C (地域農業の担い手) に出向くJ A 担当者らが2018年度の活動内容を報告した後、J A 神奈川県中央会が、安全な農産物を供給することなどを確認した。

市園芸協会(昨年)を、秦野産カーネを無料配布を実施。毎年人気の焼き鳥やわたがしなどの模擬店も軒を連ねる。他、花き部会カーネーション部に、カーネーションの無料配布なども行う。さらに、ジャンボカボチャ・ヒマワリ、アマリリ、アサガオの種子を無料で配布。その他、農機具や園芸資材などを特別価格で販売する予定。ぜひ会場では、鉢物を出荷する農家による園芸相談

じばさんずで、今年も「はだの生搾りえごま油」の販売が始まった。J A が振興作物に位置付けているエゴマを加工したもので、毎年人気を集めている一品だ。えごま油は、血流改善やコレステロール値の低下に効果があるαリノレン酸を豊富に含んでいる。無味無臭のため、ヨーグルトやサラダなどに掛けて気軽に食べられる。

J A は、エゴマが鹿やイ

えごま油 今年も販売

J A の振興作物を加工

じばさんずで人気



ノンシンなどによる食害を受けないことに着目し、2014年から農家と連携し、生産拡大に取り組んできた。T A C (地域農業の担い手) に出向くJ A 担当者らが、エゴマの選定や収穫適期の指導などを行い、農家をサ

接近! おじいちゃん



菩提の
高梨 晃さん(31)

日本茶の魅力伝えたい

「茶の手もみ教師」の資格を持ち、はだの都市農業支援センターで、約30の茶園で9品種を生産。自宅の直売所で販売する他、じばさんずなどに出荷している。県内では唯一、若い世代にも茶に親しんでもらいたいという思いから、商業者と連携し、茶を使った和菓子などを積極的に開発。所属している青年部や秦野市農業後継者クラブ「泰友会」の仲間とは、イチゴを使った紅茶作りも進めている。

昨年11月には、ドイツのミュンヘンで開かれた食品の展示即売会「FOOD&LIFE 2018」に茶農家の仲間と出店し、日本茶の魅力の世界に発信した。高梨さんは「初めてのことは大変だが、自分の成長につながる。何事にも積極的にチャレンジしていきたい」と笑顔で話した。

J A はだの

発行
秦野市農業協同組合
(神奈川県)
〒257-0015
秦野市平沢4 7 7
電話 0463(81)7711(代)
発行責任者 宮永 均

今の特集
4~5面
愛される店舗を目指して
じばさんずは出荷者と連携し、来店者から愛される店舗づくりに取り組んでいる。互いが工夫を凝らし、リピーターを増加につなげている。

秦野の八重桜を紹介
4月13日(土)午前8時から放送する、FMヨコハマ「JA Fresh Market」は、秦野の八重桜がテーマです。4月から新しくベジフルDJを担当する



中西希さんが、千村若竹加工部の岩佐スエ子さんを訪ね、八重桜の摘み取りや加工の方法などについて話を聞きます。じばさんずには並ぶ桜の加工品をおいしく食べる方法も紹介しますので、ぜひお聞きください。

パルシステムと包括協定

協同組合間連携で 一層の地域活性化へ

J A はだのは、生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープと「事業連携を通じた地域振興・地域貢献に関する包括協定」を結んだ。生協と包括的な連携協定を結ぶのは、全国のJ A でも数少ない取り組み。協同組合間連携により、幅広い分野で連携した事業を展開し、一層の地域活性化につなげていく。

協定の内容は「食と農に関する学習活動に関すること」「持続可能な開発目標(SDGs)全17項目の目標達成に向けた

13日に本町支所で開いた協定の締結調印式には、両組織の役員ら約40人が出席。山口政雄組合長とパルシステムの吉中由紀理事長が協定書に調印した。

今後は、両組織から代表者を各3名ずつ選出し、定期的に会議を開催。決定した取り組みごとにプロジェクトチームを立ち上げ、実行していく。さらに、パルシステム組合員の農園の開墾や、宅地利用の農園の開設、専業事業での秦野産農産物の販売などについても協議を進める方針だ。

山口組合長は「パルシステムと共に、農業や食の大切さ、協同組合組織の果たす役割などを広く地域住民に伝えていきたい」と力を込める。

4月からは、これまでJ A 女性部が進めてきた生活購買品の共同購入をパルシステムの宅地事業と協定する。毎週1回決めた休日に食材などを自宅へ届けるシステムで、キャンペーン期間中(4月18日まで)の申込者には「J A はだのくみあい利用券」1000点を進呈する。申し込み、問い合わせは経済課まで。01-7717-17



富田さんの温室に並ぶ野菜苗

良質な野菜苗を届けたい

夏野菜の定植シーズンに向けて、市内の農家が野菜苗の栽培管理に励んでいる。毎年85人以上の農家が野菜苗を出荷するじばさんずには、4月上旬から秦野産が並ぶ予定だ。

平沢の富田花園の代表を務め



一種以上を生産し、同店や市内外の市場などに15万ポットの出荷を見込んでいる。

富田さんは「来店者のさまざまなニーズに応えながら、今年も良質な苗を提供したい」と笑顔を見せる。

春の座談会に出席を

春の座談会を4月5日(金)~17日(水)に、市内83会場で開催します。

今回は、2018年度の事業報告や19年度の事業計画、自己改革への取り組みなどを報告し

4月5日(金)
~17日(水)に
市内83会場で

ます。日頃J A について疑問に思っていることや、ご意見・ご要望をお聞かせください。組合員の声を反映した協同組合運動を進めるため、1人でも多くの出席をお願いいたします。



ことが決まった。13日に本町支所で開いた協定の締結調印式には、両組織の役員ら約40人が出席。山口政雄組合長とパルシステムの吉中由紀理事長が協定書に調印した。

今後は、両組織から代表者を各3名ずつ選出し、定期的に会議を開催。決定した取り組みごとにプロジェクトチームを立ち上げ、実行していく。さらに、パルシステム組合員の農園の開墾や、宅地利用の農園の開設、専業事業での秦野産農産物の販売などについても協議を進める方針だ。

山口組合長は「パルシステムと共に、農業や食の大切さ、協同組合組織の果たす役割などを広く地域住民に伝えていきたい」と力を込める。

4月からは、これまでJ A 女性部が進めてきた生活購買品の共同購入をパルシステムの宅地事業と協定する。毎週1回決めた休日に食材などを自宅へ届けるシステムで、キャンペーン期間中(4月18日まで)の申込者には「J A はだのくみあい利用券」1000点を進呈する。申し込み、問い合わせは経済課まで。01-7717-17

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

野生動物から農作物守れ

被害防止へ地域一体



協力してネットを設置

秦野市内で野生動物による農作物への被害が多発する中、農家やJ A、市などが連携し、野生動物の侵入を防ぐ鳥獣防護ネットの設置や補修作業などに地域一体で取り組んでいる。さらに、J Aは農家の鳥獣被害対策への意識をより高めるため、効果的な捕獲方法を指導する講習会を開いて

防護ネット初めて設置

小原町

同会は今後、作物への被害などを検証し、効果があればさらにネットの設置場所を増やしていく考えだ。

効果的な捕獲方法を都市農業支援センターが講習会

はだの都市農業支援センターは12日、本所で有害鳥獣捕獲講習会を開いた。県湘南地域県政総合センターや県が管理する小型野生動物用の捕獲箱の貸し出し対象者に登録される。

参加者は今後3年間、狩猟免許所持者の補助者として捕獲檻(おり)の見回りや猟友会への連絡など、捕獲作業の補助が可能となる。また、J Aが管理する小型野生動物の捕獲に関する法律や動物の生態などを説明した。

他、学生のボランティアら29人が参加した。修復したのは、伊勢原市との市境の山頂から尾根に沿って張られている約2・2㍓のネット。組合員らは、破損箇所から害獣の侵入を防ぐため、定期的に補修作業に取り組んでいる。今年は日本大学の学生ボランティアが初めて協力した。参加者は破損箇所をチャックしながら、同センターから支給を受けた資材を使ってネットを張り直すなど、補修作業を進めた。

連携してネット補修

名古木地区5生産組合



ネットの補強に励む組合員

19日には名古木地区の5つの生産組合が、鳥獣防護ネットの補修作業に励んだ。

組合員やはだの都市農業支援センター職員の手伝いを受けた。

修復したのは、伊勢原市との市境の山頂から尾根に沿って張られている約2・2㍓のネット。組合員らは、破損箇所から害獣の侵入を防ぐため、定期的に補修作業に取り組んでいる。今年は日本大学の学生ボランティアが初めて協力した。参加者は破損箇所をチャックしながら、同センターから支給を受けた資材を使ってネットを張り直すなど、補修作業を進めた。

落花生の生産振興へ

J Aと市が農家をサポート



講習会で栽培方法を指導

J Aと市は特産である落花生の生産振興に力を入れている。J Aは講習会などを通じて栽培の技術面から、市は補助金制度を設けて資金面から、農家を支援している。

J Aが6日に本所で開いた栽培講習会では県農業技術センター職員が参加者44人に施肥方法や収穫適期、鳥害対策などを指導。品種ごとに収穫後の乾燥方法も解説した。

市は生産資材などの導入に対して助成。昨年度は、同制度に申請した農家に対し、10㍓当たり3万7600円を助成した。今年度も補助金制度を設ける予定だ。問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで、81-7800

文芸の窓

〈俳句〉(酒井 敏光 選)

啓蟄や魔女かぜになり宙を飛ぶ 柳川みち子 (栄 町)

啓蟄や世間がすこし騒がしい 佐藤英美子 (南矢名)

啓蟄や地虫蛆に一番い鳩 森高 由子 (渋 沢)

朧夜のワイングラスに紅の跡 高島美和子 (名古屋)

山葵田の緑ゆかしき雪消川 吉田 清美 (渋 沢)

啓蟄やメトロより人出るわ出るわ 菊池としえ (善 提)

啓蟄の風は聴き貌を持つ 志賀 明子 (千 村)

幸せの孫女の御守り雛飾り 芦川 松江 (八 沢)

露の露水ほとばしる川の石 石原 松枝 (渋 沢)

明け染めて遠や霞の花がかり 柴崎 和子 (渋 沢)

みもさ咲き四十九日の忌を修す 高橋 順子 (大秦町)

啓蟄や金魚転覆していたる 西支所 吉川実里 (選者)

〈短歌〉(久保寺 富男 選)

もふもふのバジマは暑いとおむつ替えの母は訴ふカーテンの中より 八木 実 (鶴巻北)

評 介護の現場の様子なのであろうか。事実のみを述べているが、年老いた母への哀れみがにじんでいる。その一言にこもるせつなさ

久保田 浩 (寺 山)

今まさに羽音たてつつ羽化の時 背後に輝きて空に舞いゆく 石田(すゑ) (水神町)

去年より花数多き河津桜 雨の雫の日に庭輝かす 細田 富士 (千 村)

チチと飛び交ふ小鳥たち 裸木の中春を呼びあふ 今井 かめ (羽 根)

四年間組合議席皆勤し 八十五歳終了の午後 伊東 久 (渋 沢)

一次の夢と思いぬ三人子の母となりし娘の雛納めつつ 選者

今月の理事会

3月22日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽資産査定規程の一部改正について

▽マネロン等および反社会的勢力等への対応にかかる規程類の変更に

職員人事

3月1日付採用

▽試用職員

本町支所 小島亜季子

▽嘱託員

総務課 柳館美紀

葬祭課 セレモニートー

3月14日付採用

ル 山口穂貴

▽試用職員

西支所 吉川実里

2018年度貸借対照表、損益計算書、注記表、剰余金処分案及び事業報告並びにこれらの附属細書の監事及び全国農業協同組合中央会への提出について

▽第56回通常総会の開催について

▽定款の一部変更について

▽理事会運営規則の一部変更について

▽役員報酬議案を総会に附議する件について

▽就業規則の一部変更について

切り干し大根のつくだ煮

本町支部 川口 陽子さん

■材料(4人分)■

切り干し大根50㍓、ひじき5㍓、ちりめんじゃこ50㍓、A(三温糖150㍓、濃い口しょうゆ大さじ2、薄口しょうゆ大さじ2、5倍酢20cc)、かつお節10㍓、炒り白ごま大さじ2

<作り方>

①切り干し大根はさっと洗ってごみを取り除き、水1㍓に15分ほど浸す。硬く絞ってから食べやすい大きさに切る。ひじきも水で戻してから水気を切る。

②鍋にAを入れて煮立て、切り干し大根とひじき、ちりめんじゃこを入れて煮汁が少なくなるまで煮詰める。

③火を止め、かつお節を入れて煮汁を吸わせる。最後に白ごまを混ぜて完成。

<ひとことアドバイス>

カルシウムたっぷりです。多めにできた分は冷凍保存もできます。冬に作った切り干し大根でぜひ試してみてください。

家の光 今月の新刊

手づくりのスタンドに季節の花を素敵に飾る

小さな庭

黒田健太郎 著

センスのよい寄せ植えで人気の著者が、植物をより引き立たせる小物やDIYを紹介。椅子や棚などの作り方やタメジ加工、それらにマッチする植物の選び方など、素敵な庭づくりのアイデアが満載。定価1620円(税込)

▽秦野駅前農協ビル1階一部の貸借契約締結について

これから作り続ける永久保存レシピわたしの洋食

石原洋子 著

料理教室歴40年の著者が、作りやすさを徹底追求した絶品洋食レシピ。ハンバーグやコロッケなど定番の64品を厳選。定価1404円(税込)

育てて楽しむはじめてのオリーブ

人気の21種小野塚千穂監修パワジョ倶楽部・前橋監修

1時間でよくわかる農家のための相続講座

民法改正のポイント解説つき

床爪 晋 著

読んで楽しくなる相続講座。最低限押さえておきたい情報をコンパクトに集約。すぐに活用できる「相続準備度・争族度セルフチェックシート」も便利。大幅に見直された民法改正のポイントもよくわかる。定価540円(税込)

JAグリーンは農家を応援します

4月6日(土)~14日(日)



特別価格で販売する肥料や農薬

J Aグリーンはだの4月6日(土)~14日(日)、春のキャンペーンを実施します。期間中は人気商品を特別価格で販売しますので、お得な機会にぜひご購入ください。また、4月7日(日)午前10時から本所3階百合の間で、「春の野菜作り教室」を開きます。お気軽にご参加ください。お問い合わせはJ Aグリーンはだのまで、81-7719

説明した他、わなの仕掛け方の実技講習も設け、効果的な使用方法を指導した。

受賞おめでとう!

日頃の成果を発揮

平成30年度神奈川県花

と根の張りが悪くなるので、灌水は控えめにしましょう。

育苗後半の温度は昼間で20度前後、夜間で15度前後を目安に管理します。低温のときには被覆資材で保温を行いましょう。田植えの1週間前ごろから被覆資材を外し、徐々に外気温に慣らします。30度以上の高温は「苗が焼ける」状態になったり、苗立枯病を助長したりするので、換気などを行って、高温にならないようにしましょう。

○病害虫防除

綿葉枯病ウィルスを媒介するヒメトビウンカや紋枯病に登録のある育苗箱薬剤を必ず施用しましょう。

○育苗

1㍓程度出芽したら直ちに育苗箱を広げ、昼間20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

水稻

水稻育苗について

○種子・育苗土の準備

充実の良い種子を選別するために塩水選を行う、種子伝染性の病害やシンガレセンチュウを防止するために1㍓程度出芽したら直ちに育苗箱を広げ、昼間20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

営 農 技 術

ヒント・ポイント

協力 農業技術センター 0463-58-0333

普及指導部

- 果樹花き課 果樹花き (伊藤(藤平)(吉岡)(辻本))
- 野菜課 作物
- 作物加工課

捕獲取り扱い研修会を開催。設置したくわりの管理方法や捕獲した野生動物の処理方法などを

除するために種子消毒を必ず行います。消毒後、必ず胸状態に催芽させるために、水温の積算温度100度(15度の場合7日、20度の場合5日)を目安に種子を水に浸します。

育苗土については、苗立枯病を防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒が必要です。

○播種(はしご)

10㍓当たりの播種量は20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

乾燥(もみ)で3㍓、育苗箱1箱当たりでは約150㍓(催芽粒で約190㍓程度)を目安とし、厚播きすると、苗が蒸れたり徒長したりするので注意しましょう。灌水(かんすい)は、播種

育苗土については、苗立枯病を防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒が必要です。

○播種(はしご)

10㍓当たりの播種量は20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

乾燥(もみ)で3㍓、育苗箱1箱当たりでは約150㍓(催芽粒で約190㍓程度)を目安とし、厚播きすると、苗が蒸れたり徒長したりするので注意しましょう。灌水(かんすい)は、播種

育苗土については、苗立枯病を防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒が必要です。

○播種(はしご)

10㍓当たりの播種量は20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

乾燥(もみ)で3㍓、育苗箱1箱当たりでは約150㍓(催芽粒で約190㍓程度)を目安とし、厚播きすると、苗が蒸れたり徒長したりするので注意しましょう。灌水(かんすい)は、播種

育苗土については、苗立枯病を防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒が必要です。

○播種(はしご)

10㍓当たりの播種量は20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

乾燥(もみ)で3㍓、育苗箱1箱当たりでは約150㍓(催芽粒で約190㍓程度)を目安とし、厚播きすると、苗が蒸れたり徒長したりするので注意しましょう。灌水(かんすい)は、播種

育苗土については、苗立枯病を防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒が必要です。

○播種(はしご)

10㍓当たりの播種量は20~25度、夜間15~18度で管理します。初期の低温は苗が伸びなくなるので寒紗(しや)やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、急激に温度を低下させないよう午前中に灌水します。水を掛け過ぎ

乾燥(もみ)で3㍓、育苗箱1箱当たりでは約150㍓(催芽粒で約190㍓程度)を目安とし、厚播きすると、苗が蒸れたり徒長したりするので注意しましょう。灌水(かんすい)は、播種

育苗土については、苗立枯病を防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒が必要です。

一致団結！組合員の声で 自己改革を進めよう

～春の座談会にご出席ください～

4月5日(金)から17日(水)まで 市内83会場で開催

組合員の皆さまの意見や要望をJAの運営に反映し、組合員参加による協同組合運動を進めるため、春の座談会を4月5日(金)から17日(水)まで市内83会場で開きます。

2018年度の事業報告や2019年度の事業計画、自己改革への取り組みなどについて報告します。

また、日頃JAについて疑問に思っていることや、ご意見・ご要望をぜひ、お聞かせください。組合員の皆さまのご出席をお願いいたします。



昨年の春の座談会(南平会館)



発行
秦野市
農業協同組合
(神奈川県)
〒257-0015
秦野市平沢 4 7 7
TEL 0463-81-7711(代)
発行責任者 宮永 均
印刷所 ㈱タウンニュース社



農家をサポート！「JAはだの農業応援定期」

JAはだのでは、自己改革の一環で「JAはだの農業応援定期貯金」を取り扱っています。貯金額に応じてJAの「地域農業振興費」を拡充し、農家をサポートする仕組み。貯金総額の0.02%を同振興費へ充当し、観光農業の活性化や生産資材のコスト低減など農業振興策を一層充実させることが目的です。

同定期貯金は、契約期間1年のスーパー定期貯金(自動継続)で、1口50万円以上が条件となります。成約者には管内のJAや農家の農産物直売所計7カ所で使える同定期貯金専用の「くみあい利用券」を進呈します。利用券は、貯金額50万円ごとに500点(円)を進呈し、1000点(円)が上限となります。

総合事業に取り組むJAとして、組織一体となって農家の所得向上につなげています。



利用券が使える農家グループの直売所

協同組合運動の躍進に向けて



代表理事組合長

山口 政雄

春の座談会特集号の発行に当たりまして、ごあいさつ申し上げます。
2018年度の日本経済は、自然災害などからの復旧により生産活動は緩やかに持ち直しているものの、海外経済の減速を受けて輸出が弱まっており、回復力は強さに欠ける1年でした。

農業を取り巻く環境では、「TPP11(環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定)」や「日EU・EPA(経済連携協定)」など大型の自由貿易協定が相次いで発効し、我が国の農業に多大な影響を及ぼすことが懸念されています。また、他方では国連で「家族農業の10年」が決議され、家族農業の役割が見直された年でもありました。

JAはだのでは、このような情勢の中、農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化に向けた自己改革への取り組み、協同組合運動の躍進に向けて、「第四次中期経営計画」(2016年度～18年度)最終年度の実践に取り組ましました。

組織運営では、支所運営委員会を中心に地域に根ざした協同活動を充実させることで、組合員の参加と結集を促しました。

営農指導事業では、「第三次地域農業振興計画」初年度の確実な実践に努め、「はだの都市農業支援センター」と連携し、多様な農家ニーズに対応した営農支援と都市農業の利点を生かした取り組みを進めました。

販売事業では、「安全・安心」「地産地消」の推進による農産物の供給拡大を図るとともに、「はだのじばさんず」を拠点とした買取販売を拡大し、生産者の所得増大につなげました。

経済事業では、購買品の仕入れ機能の強化や営農指導と連携した提案活動により、農業者の生産コスト低減に努めました。

金融共済事業では、総合JAとして便利で安心な地域金融機関の役割を発揮することや、総合保障の拡充を進めるなど、組合員や利用者のニーズを的確に捉え、満足度向上を図りました。

経営管理では、「第五次中期経営計画」(2019年度～21年度)を設定するとともに、新執行体制による健全な経営管理と内部管理態勢の強化による経営の堅実性と信頼性維持に努めました。

春の座談会では2018年度事業概況を報告するとともに、多くのご意見や質問をいただき、今後の事業運営に反映させていきたいと考えておりますので、一人でも多くの組合員のご出席をお願いいたします。

2018年度協同活動の主な記録

3月



- 食と農の大切さを伝えようと、食農教育補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を教育委員会に寄贈しました。(=写真)
- 自己改革への役職員の意識を高めようと「役職員農協改革実践決意集会」を開きました。238人が参加し、意思統一を図りました。
- じばさんず元気いっぱい生産者大会を開き、「地産地消」の躍進を誓いました。



9月



- 国外視察研修で14人の視察団がタイを訪問。現地の農協を視察した他、小学校を訪れて子どもたちと交流しました。(=写真)
- 特産センターと西直売センターが閉店。閉店当日には、JA役員らが店頭に立ち、じばさんずオリジナル商品「はだの丹沢梨サイダー」を来店者に手渡ししながら、長年の利用に対する感謝を伝えました。



4月



- 秦野市園芸協会主催の「春まつり」に約1万人が来場。野菜苗や花苗などの園芸農産物が豊富に並んだ他、花き部会カーネーション部による地場産カーネーションの無料配布を行いました。(=写真)
- 農業機械を農家に貸し出す農業機械利用事業を立ち上げ、剪定(せんてい)チッパーのレンタルを始めました。



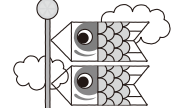
10月



- 青年部が「花いっぱい運動」の一環として本所前の花壇にパンジーの花苗270ポットを植え付けました。12月には、市内の幼稚園に寄せ植えのプランターを配布しました。(=写真)
- 衆議院第一議員会館で国政学習会を開き、牧島かれん衆議院議員と農業振興に向けた意見交換を実施。農政対策委員を務める理事ら25人が出席しました。



5月



- 子どもたちに農業への関心を高めてもらおうと、学校農園を開園している小・中学校にサツマイモやトマト、キュウリの苗などを配りました。(=写真)
- 第55回通常総会を文化会館大ホールで開催。正組合員1,703人が出席し、9議案を可決した他、新役員30人を任命しました。
- 本町支所の新店舗がオープンしました。



11月



- 女性部が各地で多発する自然災害に備え、「防災学習会」を開催。水道やガス、電気が止まったことを想定した炊飯や家庭用トイレの使い方を学びました。(=写真)
- 「届けよう秦野の味覚 広げよう協同の輪 一地域とともに55年」をテーマに農業まつりを開催。野菜の宝船などを展示した会場には約2万9000人が来場し、にぎわいを見せました。



6月



- ちゃぐりんスクール参加者の市内の小学3～6年生が、イチゴ狩りや農作業体験を通して農業への関心を深めました。(=写真)
- 女性部の「自給率向上!大豆プロジェクト」がスタート。昨年より作付面積を増やし約5㌦の大豆「津久井在来」の種をまきました。
- 地域振興作物に位置付けるラッキョウを初出荷。TAC(地域農業の担い手に出向くJA担当者)らが栽培指導するなど、生産を後押ししました。



12月



- じばさんずが2002年のオープンから、16年1カ月で来店者800万人を達成。5台のレジを同時に通過した来店者5人を800万人目として祝いました。(=写真)
- 恒例の「年忘れ年末市」を開催。正月用品を買い求める利用者でにぎわいました。
- JAセレモニーホールはだので「ぬいぐるみ・人形供養祭」と「20周年内覧会」を開催しました。



7月



- 健康福祉大会を開き、障害者への理解ある地域づくりを目指して「視覚障害者と盲導犬の役割について」と題した講演会を実施。146人が参加しました。(=写真)
- 国際協同組合デー役職員研修会を開き、「協同」の意義を再確認しました。各店舗でも地域住民に協同組合への理解を深めてもらおうとPRしました。



1月



- 生活福祉課が、自ら栽培した落花生を使って、じばさんずの出荷者らと共に加工品を開発。同店で試食を振る舞いながら、商品の特徴やJAの取り組みなどをPRしました。(=写真)
- 第14回冬休み子ども村を新潟県南魚沼市で開き、児童94人が参加しました。
- 国内視察研修の参加者が、静岡県掛川市の大日本報徳社を訪れ、協同組合への理解を深めました。



8月



- 管内の新規就農者に対し、農産物や生産資材などを保管できる「農の担い手みんなの倉庫」の貸し出しを始めました。新規就農者が営農に専念できる環境を整備し、一層の生産拡大につなげる狙いです。(=写真)
- 市民に秦野の魅力を再確認してもらおうと、秦野を舞台にした映画「じんじん〜其の二〜」の上映会を開催。「次世代につなぐ秦野の農業」と題したオリジナルムービーも制作し、上映しました。



2月



- 生産組合役員・支所運営委員合同研修会を開き、176人が参加。組織運営をさらに充実させ、地域活性化に取り組んでいくことを誓いました。(=写真)
- 地域振興作物に位置付けているニンジン「アロマレッド」を原料にした「アロマレッドのにんじんポタージュ」の販売を始めました。規格外品の有効活用を要望する生産者の声から生まれた商品です。



歩むJAはだの

JAはだののすがた



ぴーなマン

活動の実績

- 2019年2月28日現在
- （ ）内は前年同期実績
- 数字は単位未満切り捨て

この特集号での数値は速報値となります

4 地域営農の充実と発展

- ◇「地域農業振興計画」による農業の活性化
 - ・販売力強化に向けた販路の拡大
 - ・地域の特性に合った生産振興と産地づくり
 - ・営農指導員の確保と資質向上
- ◇はだの都市農業支援センターとの連携
 - ・収穫体験やオーナー制度などの観光農業の実践
 - ・鳥獣被害防止に向けた取り組みの実践
 - ・担い手の確保と新規就農者への支援強化

1 みんなの仲間

組合員数		組合員戸数	
14,511人(14,426人)		11,955戸(11,836戸)	
内訳	正組合員	内訳	正組合員戸数
	2,918人(2,990人)		2,290戸(2,323戸)
	准組合員		准組合員戸数
	11,593人(11,436人)		9,665戸(9,513戸)



5 地場産農産物の消費拡大

- ◇「はだのじばさんず」を中心とした新鮮で安全・安心な農産物の供給
- 全体の取扱高

21億円(23億3千万円)
- ＜はだのじばさんずの来店状況＞

利用者総数 51万3千人(54万9千人)

1日当たりの利用者数 1,463人(1,517人)

取扱高 9億513万円(9億9,353万円)

1日当たりの取扱金額 271万円(274万円)

2 資本の状況

資本の合計	
156億2千万円(153億1千万円)	
内訳	
準備金・積立金他	出資金
138億8千万円(135億4千万円)	17億3千万円(17億7千万円)

6 生活指導と福祉活動の取り組み

- ◇健康寿命100歳プロジェクトの実施
- ◇高齢者福祉活動の充実
- ◇生活文化活動や子育て支援への取り組み
- ◇健康福祉基金による支援活動の充実

〈人間ドック〉	受診者数	761人	(740人)
〈乳がん・子宮がん検診〉			
	受診者数	47人	(48人)
〈長寿記念品の贈呈〉	贈呈者数	166人	(184人)

3 組織活動・教育広報の充実

- ◇支所運営委員会による各種イベントの開催
- ◇協同組合活動の啓発と組織リーダーの育成
- ◇次世代対策活動と食農教育活動の充実
- ◇農政活動・税制と線下補償対策
- ◇インスタグラム(写真共有アプリ)に公式アカウントを開設し、情報発信力を強化





やえのちゃん

組合員・地域とともに 2018年度

10 農業・生活・事業資金のご融資

- ◇農業振興や生活・事業などの資金対応
- ◇休日ローン相談会の開催
- ◇貸出担当者とTAC担当者による訪問活動

貸出金残高

420億5千万円
(418億2千万円)



7 生産資材を安定供給

- ◇予約購買による生産資材の供給
- ◇安全・安心な生活物資のPRと供給

全体の供給高

27億8千万円(33億3千万円)

内訳

生産資材

12億5千万円(13億2千万円)

生活物資

15億2千万円(20億円)

※生活物資には、施設建設の取り扱いを含む
9億3千万円(13億9千万円)

11 万ーに備えての共済

長期共済新契約高

383億8千万円(407億3千万円)

長期共済保有高

4,394億4千万円(4,469億1千万円)

1年間に支払った共済金額

1,766件14億円(1,518件11億8千万円)

内 訳	生 命	735件	10億4千万円	(717件	7億6千万円)
	建 物	391件	1億8千万円	(169件	2億1千万円)
	自動車	636件	1億7千万円	(622件	2億円)
	その他	4件	1千万円	(10件	1千万円)

8 ぐらしのための共同施設

- ◇JAセレモニーホールはだのの運営強化
- ◇利用者に満足いただける旅行の提供

全体での取扱高

7億2千万円(6億5千万円)

主な施設の取扱高

旅行センター

1億4千万円(1億4千万円)

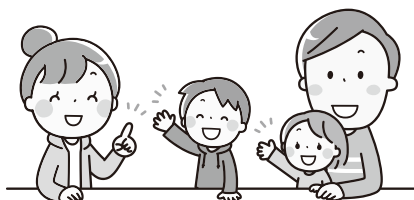
JAセレモニーホール

268件 5億6千万円(215件 5億円)

12 活動のみのり

当期剰余金

3億6千万円
(2億4千万円)



13 住まいや資産の相談

- ◇まかせて安心JAのマイホーム建設
- ◇入居者に喜ばれる共同住宅のあっせん

入居率

98.1%
(97.2%)

9 便利で安心 JAバンク

- ◇特別貯蓄運動・キャンペーンの実施
- ◇年金相談会の開催
- ◇農業応援定期貯金の取り扱い

貯金残高

2,258億8千万円
(2,208億9千万円)



第56回通常総会を開催

●日時

5月20日(月)午後1時30分～

●場所

秦野市文化会館 大ホール

第56回通常総会を5月20日（月）午後1時30分から秦野市文化会館大ホールで開きます。総会はJAの最高意思決定機関で、JAの運営や今後の取り組みなどを組合員の総意により決定します。一人でも多くの組合員の皆さまの出席をお願いします。

第56回通常総会提出議案は、下記の第1号議案から第9号議案まで上程します。

通常総会提出議案

第1号議案

2018年度貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表および事業報告の承認について

第2号議案

JAはだの「第五次中期経営計画（2019年度～2021年度）」の設定について

第3号議案

2019年度事業計画の設定について

第4号議案

役員報酬の決定について

第5号議案

2019年度指導事業の費用に充てるための経費（賦課金）について

第6号議案

定款の一部変更について

第7号議案

規約の一部変更について

第8号議案

監事監査規程の全部変更について

第9号議案

会計監査人選任について

その他臨時案件



やえのちゃん&ぴーなマン

会場入場券のご持参を

総会に出席される方は、開催案内に記載されている「会場入場券」を必ずご持参ください。

なお、総会出席者に配布する粗品は、ご来場されたご本人のみとさせていただきます。



2018年度(平成30年度)剰余金処分案

1.当期末処分剰余金	9億円	3.次期繰越剰余金	7億7千万円
2.剰余金処分数額	1億2千万円	※数字は単位切り捨て	
(1)任意積立金	4百万円	(注) 1.出資配当は2.0%の割合です。 2.事業の利用分量に対する配当金の基準は、定期貯金、定期積金、譲渡性貯金の年間平均残高10万円以上に対して1万円につき10円の割合です。	
組合員教育特別積立金	4百万円		
(2)出資配当金	3千4百万円		
(3)事業分量配当金	8千8百万円		

J A はだの自己改革への挑戦（2018年度の主な取り組み報告）

重点実施事項	
1．営農指導事業強化に向けた取り組み（担い手支援）	- 鳥獣被害対策作物「エゴマ」102kgを集荷。「はだの生搾りえごま油」に加工して販売し、283本を完売。 - 鳥獣被害対策作物「葉ニンニク」を、6,178束販売。 - 販売振興作物「ニンジン」を集荷し、2,762kgを販売。 - 出荷規格外品のトマトをジュースに加工し、986本を販売。 - 市内初の農業体験型農園の開園を支援。 - 担い手の支援のため、遊休施設を利用した「農の担い手みんなの倉庫」の貸し出しを開始。 - T A C と融資担当者が農業者を訪問し、農業資金のニーズに対応。29件、91,970千円を実行。
2．販売力強化に向けた取り組み	- 小麦出荷組合とT A C が、「農」「商」の連携した取り組みとして市内飲食店に秦野産小麦の使用を交渉。9店舗が使用を開始。 - じばさんずが新たな販路として「やさいや金次郎」とJ A 御殿場の「ファーマーズ御殿場」にじばさんず出荷者から買い取った野菜や花きの納入を開始。また、T A C と連携して買い取った農産物を量販店にも納入。 - じばさんずの販売台レイアウトを一部変更するとともに、大型冷蔵ショーケースを導入。 - 学校給食納入に向けた取り組みを強化し、年間を通して地場産農産物を安定供給。 - 加工相談会を年10回実施。加工品出荷者らの意見を取り入れて講義内容を決定。 - 規格外品を使った「アロマレッドのにんじんポタージュ」を商品化し、女性部共同購入やじばさんずで販売し、500パックを完売。 - 生活福祉課が栽培した落花生を用いて、じばさんずの加工品出荷者が新たな加工品を商品化して販売。
3．生産購買強化・再構築に向けた取り組み（生産資材価格メリットの提供）	- 新農薬のP Rを含め、生産資材の予約取りまとめやJ A グリーンでのキャンペーンを実施。 - 肥料の割引対象を1回の購入が30袋以上に加え、新たに3カ月通算で60袋以上も3％値引に拡大。 - 予約農薬は、J A 全農かながわを含めた3社で見積もり、より安価な価格を設定。 - 資材（マルチ）の一括注文により安価な価格を設定。 - 肥料の銘柄集約により安価な価格を設定。
4．組織運営経営管理改善に向けた取り組み	- 創立55周年を記念して「次世代と農業」をテーマとしたオリジナルムービーを制作し、映画「じんじん〜其の二〜」と同時上映して市民にJ A をP R。 「J A はだの農業応援定期貯金」の取り扱いを開始。457件、533,000千円の取扱高。 - 会計監査人の選定基準および選定方法を定め、応募者の中から会計監査人予定者を決定。

J A はだの第五次中期経営計画

－ 2 0 1 9 年度～ 2 0 2 1 年度－

◆重点実践計画

1．計画的営農指導の強化

- ①営農指導員の育成強化
- ②農業経営支援体制の構築
- ③担い手育成と新たな農業経営の検討

2．販売事業の高機能化

- ①販売事業専任部門の設置による販売戦略の高度化
- ②買取販売システムの構築・強化
- ③「はだのじばさんず」の一層の充実

3．トータル生産コストの削減

- ①コスト管理に基づいた営農指導
- ②より安価な生産資材の供給

4．組合員の「アクティブメンバーシップ」の確立

- ①組合員の意思反映
- ②支所支店を拠点とした組合員の結集力強化
- ③地域とJ A をつなぐ対外広報の強化

5．事業構造の再構築

- ①重点実践計画達成に向けた経営資源の計画的再配分
- ②施設の整備・再編
- ③経済事業の収支改善

◆総合基本計画

1．組織運営基本計画

- ①将来にわたる組織基盤の拡充
- ②組合員組織の育成・活性化
- ③組合員教育・広報活動の充実
- ④農政活動、補償対策、結婚相談の取り組み

2．事業活動基本計画

- ①営農指導事業
 - ・生産振興と産地づくり
 - ・観光農業振興
- ②生活指導・福祉事業
 - ・「J A 健康寿命100歳プロジェクト」の展開
 - ・高齢者福祉、生活文化活動の充実
- ③購買事業
 - ・生活物資事業の改善
 - ・物流センター、施設建設の充実
- ④金融事業
 - ・協同組合金融として地域インフラたる地位の確立
 - ・農業の担い手支援や農業振興に向けた農業資金の対応
- ⑤共済事業
 - ・「医療共済」「年金共済」「こども共済」「介護共済」の普及
 - ・3 Q 訪問活動を通じた保障点検の実施と総合保障の実現

3．経営管理基本計画

- ①理事会・監事会・役員執行体制の強化
- ②総合経営収支および財務基盤強化
- ③大規模災害対策
- ④コンプライアンスおよびリスク管理機能の充実
- ⑤監査態勢の整備・充実
- ⑥人事労務管理強化および役職員教育
- ⑦広域合併の検討
- ⑧関係機関との連携
- ⑨地域・社会貢献の取り組み



ぴーなマン